

一人の新しい人は、人を創造した神の定められた御旨を成就する

(金曜日——午前の第一の部)

メッセージ 4

一人の新しい人のために、キリストをわたしたちのパーソンとする

聖書：エペソ 2:15. 4:22-24. 3:17 前半. コロサイ 1:27. 3:4, 10-11. ガラテヤ 2:20

**I. 新しい人のために、わたしたちはみなキリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——エペソ 2:15. 3:17 前半：**

- A. 一人の新しい人の中にはただ一つのパーソン、すなわち、キリストだけがおられます——17 節前半. 4:24。
- B. わたしたちが見る必要があるのは、召会が一人の新しい人であるということと、この新しい人の中には、わたしたちには余地はないということです。なぜなら、キリストがすべてであるからです——コロサイ 3:10-11。
- C. キリストは一人のパーソンとして、わたしたちすべての中におられます。ですから、わたしたちはみな、ただ一つのパーソンを持っています——ガラテヤ 2:20. コロサイ 1:27. エペソ 3:17 前半。
- D. 新しい人の中で、わたしたちはみな一人の人です。あらゆる人がただ一人の人であるという要求は、極めて高いのです——コロサイ 3:10-11。
- E. 新しい人は肢体にかかっているのではなく（ローマ 12:4-5）、パーソンにかかっています。ですから、わたしたちはみな次のように尋ねる必要があります、「だれがわたしのパーソンでしょうか？ わたしでしょうか、それとも主イエスでしょうか？」。
- F. 神が顧慮するのは、わたしたちがキリストによって生きているかどうか、またキリストをわたしたちのパーソンとしているかどうかです——ヨハネ 6:57 後半. ピリピ 1:21 前半. コロサイ 3:4. エペソ 3:17 前半：
  - 1. わたしたちはキリストの豊富を食べ、それを取り入れ、それをわたしたちの存在の中へと吸収するだけであってはなりません。わたしたちはまたキリストにわたしたちのパーソンとなつていただくべきです——8, 17 節前半。
  - 2. わたしたちはキリストをわたしたちの命とするだけでなく、わたしたちのパーソンともすべきです。

**II. 一人の新しい人の実際的な出現のために、古い人のパーソン全体は除き去られなければなりません。また、わたしたちは新しいパーソンによって生きなければなりません——ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. エペソ 4:22-24. 3:17 前半：**

- A. わたしたちは、わたしたちの以前のパーソンが十字架につけられたことを認識しているのですから、もはやそのパーソンの中で、そのパーソンによって、そのパーソンと共に生きるべきではありません——ローマ 6:6。
- B. わたしたちは、わたしたちの以前のパーソン、すなわち「古い人」と「外なる人」を否まなければならない、またわたしたちの新しいパーソン、すなわち「内なる人」によって生きなければなりません——エペソ 4:22. コロサイ 3:9. II コリント 4:16.

エペソ 3:16。

- C. クリスマンとしてのわたしたちの標準は、正しいか間違っているか、善か悪かであるべきではなく、パースンであるべきです。極めて重要な事は、わたしたちが「何を」行なっているかではなく、「だれが」それを行なっているかです。
- D. わたしたちは外側の振る舞いを調整することを顧慮すべきではなく、古いパースンから新しいパースンへの内側の転換を顧慮すべきです——ガラテヤ 2:20。

**Ⅲ. わたしたちがキリストをわたしたちのパースンとすることによって、特に決定をする時に彼をパースンとすることによって生活するなら、わたしたちの生活は、新しい人の生活となります——ヨハネ 4:34. 5:30. 6:38. 17:4. ローマ 15:32. ヤコブ 4:13-15 :**

- A. からだは行動するためですが、新しい人は生活するためです。そして、わたしたちの生活の八十から九十パーセントは、決定をすることにあります——ピリピ 1:21-26。
- B. 新しい人の中で、わたしたちはキリストをわたしたちのパースンとし、計画を立て、わたしたちがどのように生活すべきかを決定します——ローマ 15:32。
- C. わたしたちは、キリストをわたしたちのパースンとすることによって、またわたしたちの中ですべての決定をする方としての彼をもって、新しい人の中で生活する必要があります。
- D. わたしたちは、キリストをわたしたちのパースンとするなら、わたしたちの生活におけるいかなることも自分一人で決めないでしょう——ピレモン 14 節：
  - 1. いったんわたしたちが一人の新しい人の一部分であることを見るなら、自分一人で事を決定することはできなくなります。
  - 2. わたしたちは新しい人の一部分であるので、わたしたちの決定とわたしたちの生活は、わたしたちのものであってはならず、団体の新しい人の決定と生活であるべきです。これが究極の要求です。
  - 3. 新しい人の生活は、団体の生活です。ですから、わたしたちの決定は、団体の決定であって、個人の決定ではありません——I コリント 4:17。
  - 4. わたしたちが見る必要があるのは、わたしたちが団体のからだと団体の新しい人であるということと、わたしたちの生活と行動のいずれも団体的であるということです—— 12:12. ローマ 12:4-5。

**Ⅳ. パウロは、一人の新しい人のためにキリストをわたしたちのパースンとすることの模範です—— I テモテ 1:16 :**

- A. 「神が、喜んで御子をわたしの中に啓示し」——ガラテヤ 1:15 後半-16 前半：
  - 1. 神の御子の生けるパースンを明らかにすること以上に、神を喜ばせることはありません。
  - 2. わたしたちは、神の御子の啓示に満ちていて、こうして新創造となって、キリストがわたしたちの中で生きているという状態へともたらされる必要があります。
- B. 「わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです」—— 2:20 前半：
  - 1. パウロは、キリストの命が彼の中に生きていると言ったのではなく、パースンであるキリストが彼の中に生きていると言いました。

2. 神のエコノミーとは、「わたし」がキリストの死の中で十字架につけられ、キリストが彼の復活においてわたしの中で生きることです。
- C. 「わたしの子供たちよ、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、わたしは……再び産みの苦しみをしています」—— 4:19 :
1. キリストがわたしたちの内に形づくられることは、キリストがわたしたちの中で完全に成長することです。
  2. キリストはわたしたちの中へと生まれました。今や、彼はわたしたちの中に生きています。わたしたちが円熟するとき、彼はわたしたちの内に形づくられます。
- D. 「キリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように」——エペソ 3:17 前半 :
1. 父なる神は、ご自身の権威を霊なる神を通して行使し、わたしたちを内なる人の中へと増強しています。それによって子なる神は、わたしたちの心の中に深くご自身のホームを造ることができます。
  2. もしわたしたちがキリストにわたしたちの内側ですべての地位を得ていただき、もしわたしたちが彼に何であれわたしたちの中で行ないたいことを行なっていたく完全な自由を与えるなら、わたしたちの心は彼のホームとなります。
- E. 「わたしが、あなたがた一同をキリスト・イエスの心の深みの中で、どんなに恋い慕っているか、神がわたしの証人です」——ピリピ 1:8 :
1. パウロは、彼の天然の内なる存在の中で生活しませんでした。彼はキリストの心の深みの中で生活し、キリストの心の深みの中でキリストを経験し、キリストの心の深みの中でキリストと一でした。
  2. パウロは自分自身の心の深みを保ちませんでした、キリストの心の深みを、自分のものとししました。パウロの内なる存在は、キリストの心の深みをもって再構成されていました。
- F. 「キリスト・イエスの中にあったこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい」—— 2:5 :
1. キリストの思いをわたしたちの内側でも思いとすることは、わたしたちの天然の思いを否み、キリストの思いを受け入れることによって、キリストをわたしたちのパーソンとすることです。
  2. わたしたちはキリストをわたしたちのパーソンとしようとするなら、進んでわたしたちの思いを否み、キリストの思いによってわたしたちの思いを置き換えなければなりません。
- G. 「なぜなら、もしわたしが何かを赦したとしたら、わたしの赦したことは、あなたがたのためにキリストの御前で赦したからです」——Ⅱコリント 2:10 後半 :
1. パウロは、キリストとの最も近く最も親密な接触の中で生活し、キリストの目の表示にしたがって行動しました。
  2. パウロはキリストと一であり、キリストに満ちており、キリストで浸透されていた人でした。彼は天然の命が砕かれ、さらには終結させられており、意志が柔らかく柔軟であり、感情が熱烈であるが制限されており、思いが思慮深く冷静であり、聖徒たちに対して霊が純粹で真実であり、彼らに益を得させました。

H. 「それは律法の義の要求が、肉にしたがってではなく、霊にしたがって歩くわたしたちにおいて、満たされるためです」——ローマ 8:4 :

1. 特に、キリストをわたしたちのパーソンとすることは、ミングリングされた霊に完全にしたがって存在することです。
2. わたしたちは日常生活の中で、教えや、感覚や、観念や、環境にしたがって存在すべきではなく、ミングリングされた霊にしたがって存在し、宇宙的な新しい人のためにキリストをわたしたちのパーソンとすべきです。

V. わたしたちはおおいに取り除かれ、照らされるなら、今日、主の回復において共に立ち上がって、一人の新しい人のためにキリストをわたしたちのパーソンとする必要があることを、わたしたちは見ます——エペソ 3:17 前半、4:24, 11-13 :

- A. 賜物のある人たち、すなわち使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者は、このことを彼らの目標とすべきです—— 11 節、3:17 前半。
- B. わたしたちは、あらゆる地方において聖徒たちを成就する必要があります。それは、彼らが一人の新しい人のために、キリストを彼らのパーソンとする状態へと至るためです—— 4:11-13。
- C. もし主の回復の中のすべての聖徒がキリストを彼らのパーソンとするなら、わたしたちはみな自然に一人の新しい人となります—— 3:17 前半、4:24。
- D. 「究極的に、聖書は一人の新しい人としての召会について語っています。……新しい人の中には、そのパーソンのほか何もありません。この段階はとても高いのでこれ以上高くなることはできず、とても厳密であるのでこれ以上厳密になることはできず、とても親密であるのでこれ以上親密になることはできません。すべての人は一人の新しい人です。この一人の新しい人にはただ一つのパーソンだけがあり、このパーソンは主イエスです」(ウィットネス・リー全集、1977年、第3巻(下)、「一つからだ、一つ霊、一人の新しい人」、第7編)。

務めの書物からの抜粋 :

新しい人

わたしたちの新しいパーソンの誕生

コロサイ人への手紙第 3 章 11 節はわたしたちに告げていますが、新しい人の中には天然の人がなく、キリストがすべてであり、すべての中におられます。しかしながら、新しい人はわたしたちの霊の中での新しい誕生をもって開始します (ヨハネ 3:6)。わたしたちは新しい誕生から一人の新しい人への発展を見る必要があります。一人の新しい人の中ではキリストがすべてであり、すべての中におられます。

人は三部分、すなわち霊、魂、体から成っています (I テサロニケ 5:23)。人の命は魂の中にあります。魂の中のこの命は、わたしたちの存在、パーソン、自己です。人は救われる前、魂 (使徒 7:14)、パーソンであり、二つの器官を持っています。すなわち、外側の物質的な世界に接触するための外側の器官である体と、神と霊的な世界に接触するための内側の器官である霊です。わたしたちが主イエスを信じ、受け入れたとき、彼は命としてわたしたちの霊の中へと入って来られました。今やわたしたちの霊の中にはもう一種類の命、神の神聖な命があります。以前、わたしたちは魂の中に人の命を持っていただけでしたが、今やわたしたちは霊の中に神聖な命を持っています。結果として、わたしたちの

霊は今やパーソンとなりました。以前、それは器官にすぎませんでした。なぜなら、それは命を持っていなかったからです。しかし今やそれは命を伴うパーソンともなりました。あなたは再び生まれることによって、別のパーソンとなりました。以前、あなたは魂的な人であり、天然的で魂的な人の命を持っていましたが、今やあなたは霊の中に神聖で、永遠の、非受造の命を持っています。あなたは再生されることによって、回心して別のパーソンとなりました。以前、あなたのパーソンは魂でしたが、今やあなたのパーソンはあなたの霊です。今やあなたは魂によってではなく、霊によって生きなければなりません。あなたは霊を持っていることを認識する必要があります、またあなたの霊はあなたのパーソンであることを認識する必要があります。

#### わたしたちの新しいパーソンの成長

ヨハネによる福音書第3章は、わたしたちの霊の中の新しい誕生についてわたしたちに告げています、「その霊から生まれるのは霊である」(6節)。それからペテロの第一の手紙第2章2節は、生まれたばかりの赤子について語っています、「生まれたばかりの赤子のように、悪巧みのない言葉の乳を切に慕い求めなさい。それによって、あなたがたが成長して」。第一に、わたしたちは再び生まれます。第二に、わたしたちは成長しなければなりません。この成長はわたしたちの霊の中になければなりません。生まれたばかりの人たちが成長することは、思いの中で多くの知識を取り上げることの意味しているではありません。成長することは、わたしたちの霊の内側のキリストが増し加わることを意味します。わたしたちの霊の中のキリストの増し加わりは、命における真の成長です。

キリストはわたしたちの霊の中におられますが、わたしたちは成長するために彼を享受しなければなりません。わたしたちはキリストを食べ、キリストを飲み、キリストを吸い込まなければなりません。わたしたちは何度も何度もキリストを取り入れなければなりません。毎日、少しずつ、キリストはわたしたちの内側で増し加わります。ある人にとっては、この成長が止まってしまっているかもしれません。あなたは二十五年以上も前に再び生まれたかもしれませんが、あなたの内側のキリストの量は、初めて救われたときとほとんど同じであるかもしれません。あなたは魂の中に多くの知識を取り上げたかもしれません。あなたはすべての聖書的な教えとキリスト教におけるすべての規則を学んだかもしれません。あなたは、どのようにすばらしい方法で詩歌を歌うかを学びさえしたかもしれません。しかしながら、あなたはこれらすべての事柄を魂の中に得ていました。キリストのおられる所であるあなたの霊の中には、ほとんど何の増し加わりもないかもしれません。あなたは年を取った赤子、すなわち長年クリスチャンでありながら、命においてほとんど成長のない人であるかもしれません。

ある人は、救われてから長年たっており、キリスト教ですべての教えを学び、多くの良い有名なクリスチャンの語り手から聞いたことを誇っているかもしれませんが、どれほどのキリストを得たのでしょうか？ ある若い兄弟は救われてわずか数年しかたっていないかもしれませんが、彼らよりもさらに多くのキリストを得てきたかもしれません。彼らは魂の中で多くの知識を持っているかもしれませんが、霊の中でキリストをほとんど得てこなかったかもしれません。わたしたちの唯一の必要は、霊の中でキリストを得ることです。

わたしたちの新しいパーソンによって生きる

再び生まれることはすばらしいのですが、わたしたちは新しい誕生の後、成長する必要があります。成長するとはただ、キリストがさらに加えられ、わたしたちの中へと造り込まれることを意味します。以前、わたしたちは魂の中の人でしたが、今や霊の中の人にならなければなりません。わたしたちの魂、すなわち以前のパーソンは、すでに「キリストと共に十字架につけられました」（ガラテヤ 2:20）。わたしたちは、この事実を取って実行しなければなりません。わたしたちは以前のパーソンが十字架につけられたことを認識したので、そのパーソンの中で、そのパーソンによって、そのパーソンと共に、もはや生きるべきではありません。わたしたちは、聖書が「古い人」（ローマ 6:6、エペソ 4:22、コロサイ 3:9）、「外なる人」（Ⅱコリント 4:16）と呼んでいる以前のパーソンを否まなければならない、新しいパーソン、「内なる人」（エペソ 3:16）によって生きなければなりません。わたしたちが認識しなければならないのは、わたしたちが今や別のパーソン、すなわち、キリストを命とするわたしたちの霊の中のパーソンであるということです。わたしたちのパーソン、わたしたちの霊、キリストの命は今や一です。この新しいパーソン、わたしたちの霊に命としてのキリストを加えたものは、わたしたちの人格でさえあります。今やわたしたちの人格は、魂の中にではなく、霊の中にあります。わたしたちはもはや古いパーソンの中で生きるべきではありませんし、古いパーソンにどのような行動も取らせるべきではありません。わたしたちは新しいパーソンによって生きなければなりません。

わたしたちは、このことをわたしたちの日常生活の中でどのように適用するのでしょうか？ 仮に、兄弟が物を買うためにデパートに行こうとします。彼はそれが主のみどころかどうかを調べるべきではありません。彼が調べなければならない最初のことは、彼の行くことが、彼の魂から開始しているのか、それとも彼の霊から開始しているのかということです。それは、彼の以前のパーソンによって開始されているのでしょうか、それとも彼の現在のパーソンによってでしょうか、古い人によってでしょうか、それとも新しい人によってでしょうか、魂の人によってでしょうか、それとも内なる人によって開始されているのでしょうか？ それは彼の新しいパーソンによって開始されなければなりません。わたしたちがこの教理を学ぶのは容易であるかもしれませんが、わたしたちの生活の大部分において、なおも絶対的に古い人の中にいるかもしれません。物を買うためにデパートに行くことは、悪くもなく、邪悪でもありませんが、それはなおも以前のパーソンの行動であるかもしれません。わたしたちは名においてはクリスチャンですが、なおも古いパーソンの中で生活しているかもしれません。わたしたちは物事が正しいか間違っているか、あるいは良いか悪いかを考察することにしがたって物事を行ない、それが古いパーソンのものであるか、新しいパーソンのものであるかという原則にしがたって物事を行なわないかもしれません。わたしたち再び生まれた人たちは、ほとんど新しいパーソンの中で生きていないかもしれません。

神はあなたが良い人になるように求める意図はありません。神の意図は、あなたが新しいパーソンの中で生きることにあります。あなたが物を買うか物を買わないか、あるいは買い物に行くか行かないかは問題ではありません。問題なのは、だれが行くのか、すなわち、以前のパーソンなのか現在のパーソンなのか、魂の中のパーソンなのか霊の中のパーソンなのかということです。もし魂の中のパーソンが行くなら、キリストはそこにおられ

ませんが、もし霊の中のパーソンが行くなら、キリストが行かれます。なぜなら、霊の中であなたはキリストと一であるからです。新しいパーソンは、あなたの霊の中にいる命としてのキリストです。

これら二つが、すなわち命としてのキリストと、あなたの霊が共に一になるとき、あなたは新しいパーソンの人格を持つようになります。あなたは、自分が救われただけでなく、再び生まれて、別のパーソンとなったことを見る必要があります。以前、あなたはある種のパーソンでしたが、再生されて、絶対的に異なるパーソンとなりました。あなたはかつて魂の中のパーソンでした。そのパーソンが良いか悪いかはあまり意味がありません。あなたは生まれながら優しく、穏やかで、忍耐強く、親切で、ゆったりとしており、静かであるかもしれません。人々は常に、この種のパーソンはとても良いと考えます。あなたが短気を起こすことはさらに難しいかもしれないのです。あらゆる人はこの種のパーソンを好むでしょう。一方で、わたしは粗野で、強情で、荒っぽく、気性が荒く、少しも忍耐強くないかもしれません。だれもわたしを好みはしないでしょう。しかし、あなたが良く生まれたか悪く生まれたかどうかは何の意味もありません。なぜなら、わたしたちはみな再び生まれる必要があるからです。もしあなたが悪く生まれたなら、再び生まれる必要がありますが、良く生まれたとしても、なおも再び生まれる必要があります。人種、国籍、天然の性情がどうであるかにかかわらず、わたしたちはみな再び生まれなければなりません。この再び生まれることにおいて、わたしたちはみな同じです。

わたしたちは再び生まれた後、もはやその古いパーソンによって生きるのではなく、絶対的に新しいパーソンによって生きるべきです。問題は、わたしたちが再び生まれた後でさえ、なおも古いパーソンによって生きているということです。わたしたちは常に、物事が正しいか間違っているかを考えます。もしそれが正しければ、わたしたちはそれを行ないます。もしそれが間違っているなら、わたしたちはそれを行なおうとしません。こういうわけで、わたしたちがクリスチャンであることの標準は、パーソンではなく、振る舞いです。これは今日のキリスト教における標準ですが、これは間違っています。わたしたちの標準は振る舞いではなく、パーソンでなければなりません。ある事柄が正しくても間違っている、良くても悪くても、わたしたちはただ一つのことには注意すべきです。だれがそれを行なおうとしているのでしょうか？ わたしたちの古いパーソンがそれを行なおうとしているのでしょうか、それとも新しいパーソンがそれを行なおうとしているのでしょうか？ それは、あなたが「何を」行なおうとしているのかではなく、「だれ」がそれを行なおうとしているかの事柄です。十字架の働きの真の主観的な面は、あなたの古いパーソンを十字架につけることです。それはもはやわたし、すなわち古いパーソンではなく、キリスト、すなわち新しいパーソンです（ガラテヤ 2:20）。それはあなたの振る舞いを調整したり、改善したりする事柄ではありません。それはあなたの存在を、古いパーソンから新しいパーソンに移行させる事柄です。

#### わたしたちの新しいパーソン——召会生活の実際

主がわたしたちの目を開いて、召会生活はこの新しいパーソンの中にあるのであって、他の何ものでもないことを見てくださいように。あなたがどれほど良く、忍耐強く、へりくだっており、親切で、穏やかであるかにかかわらず、あなたが古いパーソンの中に

いる限り、召会生活を経験することはできません。あなたはとてもおおらかなパーソンであるかもしれませんが、なおも古いパーソンの中にいるなら、あなたは召会生活にうんざりし、召会生活もあなたにうんざりします。召会生活は絶対的に新しいパーソンの中のもので、わたしたち一人一人の内側には新しいパーソンがあります。これらの新しいパーソンのすべてが共に加えられたものが、召会と等しいのです。召会とは何でしょうか？ 召会はわたしたちの内側にあるすべての新しいパーソンの合計、総合計です。召会生活はわたしたちの霊の中にあります。こういうわけで、わたしたちは成長する必要があり、成長しなければならないのです。再び生まれることによって、わたしたちは生まれたばかりの赤子になります。今や、わたしたちは機能においてだけでなく、パーソンにおいて、内なる人において成長する必要があります。わたしたちの霊の中にあるパーソン全体が成長する必要があります。

こういうわけで、エペソ人への手紙第3章は、わたしたちが力をもって内なる人の中へと増強される必要があると言っています（16節）。わたしたちの内なる人とはわたしたちの霊ですが、霊が弱いのは、力に、すなわち、復活の力、超越する力、征服する力、支配する力に欠けているからです。成長するために、わたしたちは増強される必要があり、増強されることは、これらいくつかのこと、すなわち、常食とすること、飲むこと、呼吸すること、内側でキリストで満たされることによります。わたしたちはキリストを常食とすればするほど、キリストを飲めば飲むほど、キリストを呼吸すれば呼吸するほど、内側でキリストで満たされれば満たされるほど、ますます増強されます。わたしたちは増強されれば増強されるほど、ますますキリストの復活の力をもって力づけられます。死はわたしたちに勝つことはできません。復活の力は、わたしたちの周りにある、またわたしたちの内側にあるすべての死に打ち勝ちます。わたしたちは力づけられるとき、また超越し、征服し、支配します。この増強されることは、わたしたちの内側のキリストの増し加わり、内なる人の成長です。この増強によって、わたしたちの内なる人、新しいパーソンは毎日成長しています。

わたしたちはみな観念における変化を必要とします。わたしたちは天的な啓示が必要です。それは、わたしたちが自分の背景から集めてきたすべての間違っただ観念を下ろすためです。わたしたちはみな一つのこと、すなわち再び生まれた人たちとして、もはや古いパーソンの中で生きるべきではないことを認識しなければなりません。わたしたちはその古いパーソンを否み、放棄しなければならず、今や新しいパーソンを、すなわち、キリストを命とするわたしたちの霊を持っていることを認識しなければなりません。わたしたちはこの新しいパーソンによって生き、あらゆることを行なわなければなりません。わたしたちは物事が正しいか間違っているか、良いか悪いかに注意すべきではありません。わたしたちはただ一つのことを、すなわち、どのパーソンがそれを行なおうとしているかに注意しなければなりません。それは、古いパーソンでしょうか、それとも新しいパーソンでしょうか？ わたしたちは常にこの一つの点によって調べられるべきです。もしわたしたちが新しい人、すなわち、新しいパーソンの中で弱い、あるいはむなしと感じるなら、死にもの狂いになって祈る必要があります、「主よ、わたしをあわれんでください。わたしの状況を見てください。わたしは新しいパーソンの中でとてもむなし、弱いです」。わたしたちは主とやりとりをする必要があります。そのとき、わたしたちは力づけられます。



もしわたしたちがどのように死にも狂いになって、キリストとやりとりをするかを知り、どのように御言を祈り読みすることを通してキリストを常食とするかを知り、どのように彼の御名を呼び求めることによって彼から飲むかを知り、どのように日ごとに彼を吸い込むかを知るなら、霊の中で彼と一となります。このことは日ごとにわたしたちを新しいパーソンの中で成長させます。今日、わたしたちは、新しいパーソンが成長しつつあることを見ることもできませんし、認識することもできませんが、ある日、わたしたちは「もはや幼子ではなく」、「一人の完全に成長した人に到達」するようになります (4:14、13)。その完全な成長は、わたしたちの中におられる実際としてのキリストの蓄積であり、わたしたちのキリストに対するすべての経験を通してです。それは単に、わたしたちがキリストを忍耐強さ、力、命として少し経験することではありません。そうではなく、一日中、わたしたちは新しいパーソンによって生きるのです。もしわたしたちが兄弟を訪問しようとするなら、これがわたしたちの古いパーソンであるのか、自己であるのか、それとも新しいパーソンであるのか、霊であるのかを調べなければなりません。わたしたちはこの点を調べ、正しい答えを得なければなりません。そのとき、わたしたちは古いパーソンにおいてではなく、新しいパーソンにおいて行かなければなりません。母親は子供たちと話そうとするときでさえ、古いパーソンが話そうとしているのか、新しいパーソンが話そうとしているのかを調べなければなりません。わたしたちはみな再び生まれていますが、古いパーソンによって生きているのでしょうか、それとも新しいパーソンによって生きているのでしょうか？ わたしたちは新しいパーソンの中で生きることによってのみ、わたしたちの実際としてのキリストを持つことができます。一日中、わたしたちは新しいパーソンによって生きなければなりません。あなたが学校で学科を学ぶことでさえ、この一つの点を調べる必要があります。学校のために、あなたは思いを活用しなければなりません、古いパーソンが思いを用いるのではなく、新しいパーソンが思いを用いるべきです。あなたは学科を学ぶときはいつでも、調べなければなりません。どちらのパーソンが学ぼうとしているのでしょうか？ もしあなたが新しいパーソンの中で学ぶのであれば、あなたの思いは器官として、新しいパーソンの制御の下であなたのために働きます。もしあなたが衣服を着ようとするなら、どのような服を着ようとするのかを調べてはなりません。第一に、あなたは「だれ」が衣服を着ようとしているのか、すなわち、古いパーソンであるのか、新しいパーソンであるのかを見いださなければなりません。わたしたちは生まれたばかりのクリスチャンですが、大部分のとき、新しいパーソン、すなわちわたしたちの霊によってではなく、古いパーソンによって生きています。

### 新しい人を着る

わたしたちはみな見なければなりません、召会生活において、すべての肢体は新しいパーソンによって生きる必要があります。わたしたちは高い道德水準によって生きるべきでも、不道德な水準によって生きるべきでもありません。わたしたちはどのような水準の振る舞いによっても生きるべきではなく、パーソンによって生きるべきです。こういうわけで、コリント人への第二の手紙第4章16節は、わたしたちの外なる人、古いパーソンは朽ちていっても、わたしたちの内なる人、新しいパーソンは日ごとに新しくされていくと言っています。外なる人は減少されなければなりません、内なる人は増し加わる必要

があります。わたしたちは真に、内側に二つのパースンを持っています。一つは古く、一つは新しいです。古いパースンは消耗されなければなりません、新しいパースンは増し加わる必要があります。わたしたちの問題は、このことを認識していないことと、新しいパースンによってではなく、古いパースンによって生き続けていることにあります。わたしたちには啓示が必要です。それは、わたしたちが古いパースンから新しいパースンへの移行を持つためです。そのとき、わたしたちは思いの霊の中で新しくされ、新しい人（エペソ 4:23-24）、団体の召会生活を着るようになります。使徒パウロは、わたしたちが古い人、古い団体の人を脱ぎ捨てて、新しい人を着なければならないと言っています（22、24節）。わたしたちはみな古い社会生活、この世の社会生活を脱ぎ捨てなければならず、新しい社会生活、召会生活を着なければなりません。わたしたちは少しずつ召会生活を着ます。わたしたちは召会生活にあずかっているかもしれませんが、なおもこの世の社会生活と関係のあるものを持っているかもしれません。わたしたちは思いの霊の中で新しくされていく間に、徐々に古い社会生活を脱ぎ捨てて、新しい召会生活に着せられつつあります。これは、わたしたちが今日、召会生活の中で必要としているものです。最終的に、わたしたちは新しい誕生をもって、また新しいパースンの成長を通して、新しい人という目標、すなわち「その新しい人には、ギリシャ人とユダヤ人、割礼と無割礼、未開人、スクテヤ人、奴隷、自由人はあり得ません、キリストがすべてであり、すべての中におられるのです」という目標に到達するのです（コロサイ 3:11）。これが召会生活です。

わたしたちは新しい誕生の後に、教理的な方法ではなく、非常に経験的な方法で成長しなければなりません。わたしたちはみなキリストをもって成長し、新しいパースンによって生きる必要があります。わたしたちは外側の振る舞いを調整することについて顧慮すべきではなく、古いパースンから新しいパースンへの内側の移行についてのみ顧慮すべきです。わたしたちは新しいパースンによって生き、また新しいパースンによってあらゆることを、大きなことも小さなことも行なうべきです。もしわたしたちがこのことを行なうなら、力づけられ、キリストの真の増し加わりと、命における成長を持つようになります。そのとき古い社会生活は下ろされ、新しい召会生活が取り上げられます。最終的に、わたしたちは、すべての中ですべてであるキリストをもって完全に成長します。そのとき、わたしたちは霊の中だけではなく、実際の中でも、正常な召会生活の中にいるようになり、神を礼拝します。わたしたちは命としてのキリストの実際を経験し、一人の完全に成長した人へと成長します（エペソ 4:13）。ある日、主はすべての地方召会をこの点にまでもたらされます。彼はこのことを待ち望んでおられます。おそらく、それは彼の再来の日であるでしょう。（ウイットネス・リー全集、1970年、第2巻（下）、「使徒パウロの二つの最も大いなる祈り」、第2編）